

# 化女沼周辺の植物

高橋和吉 (NPO 法人エコパル化女沼)

## 1. 大崎市化女沼

化女沼は大崎市北部の丘陵地と平野部が出会う丘陵地にあり、昔から灌漑用溜池として維持され、水生植物も豊富で化女沼及びその周辺は市民の憩いの場としても親しまれてきた。1995年、田尻川の洪水調節と農業用水目的にダム堰堤が建設された。ダム設定後、水面上昇などの影響で水生植物やダムができる前に岸辺の周辺に生育していた多くの植物が消滅するという事態も起こった。ダムができる以前にはガガブタ、ヒツジグサ、ジュンサイ、コウガイモ、デンジソウやミズニラも多く生育していたが、その後絶滅してしまった。現在、沼の周囲はマコモやウキヤガラなどが覆い、ハスやヒシなどの他、クロモ、オオトリゲモ、ホソバミズホキモ、ミクリ、ミズドクサなど多種多様な水生植物が生育する沼となっている。沼の周辺はクリ・コナラ林、スギ植林の林、ススキやヨシ、シバなどの草地で、分布上貴重な種類も多く見られ、また、シダ植物の種類、個体数も豊富である。

2008年、化女沼はヒシクイ、マガン、オオハクチョウなどのガンカモ類の重要な越冬地として国際的に重要な湿地を守るラムサール条約湿地として登録された。

## 2. 化女沼周辺に見られる植物の変遷

化女沼及びその周辺の植物について調査をし、その植物相が明らかになったのは1981年古川市教育委員会発行の「古川市化女沼およびその周辺地域植物調査報告書」である。ここで取り上げられた自生植物は、シダ以上の高等植物121科701種(品種も含む)である。

その後、化女沼治水ダム建設に伴い、1985年から古川土木事務所より沼の植物調査と水生植物の保護対策を依頼され、ダムが完成した1995年まで調査及び移植による保護対策を行った。しかし、ダムの設置による植物の影響は大きく沼及び沼の周辺の植物で絶滅した種類は60種以上もあった。その中には、ミズニラ、デンジソウ、トリゲモ、ガガブタ、カキツバタ、イヌセンブリ、イヌタヌキモ、オキナグサ、トキシソウ、ヤマトキシソウ等の絶滅危惧種も含まれる。

その後、現在に至るまで、調査も進み新たな種類が80種以上追加されている。その中でもシダ植物は1982年以後22種も追加、現在14科60種5変種4品種7雑種計76種が確認された。また、そのシダの中で2012年5月31日に見つ

けたフモトシダ、2012年10月3日に見つけたハカタシダは太平洋側北限種となっている。

### 3. 化女沼環境教育ゾーン創出事業について

大崎市は、平成30年に迎える「ラムサール条約10周年」に向けて、化女沼の保全と活用を図るとともに、四季を通じて化女沼の豊かな生物多様性を身近に感じ、学ぶことができる「環境教育ゾーン」としての普及啓発を図ることを目的とし、化女沼に自生する植物の植栽や植生管理及び水生植物観察池の創出を行っている。その事業はエコパル化女沼が請け負った作業を進めている。化女沼に自生している化女沼にとっては貴重なキキョウやノハナショウブ、ニッコウキスゲ、ヤマユリなどは、種子を撒き育てたものの移植により作業を進めている。

### 参考文献

- 高橋和吉. 1979. 古川市化女沼およびその周辺のシダ植物. 宮城の植物第7号: 11-13
- 化女沼植物調査会. 1981. 古川市文化財調査報告書「古川市化女沼およびその周辺地域植物調査報告書」 古川市教育委員会
- 高橋和吉. 1987. 化女沼治水ダム建設工事に伴って影響を受ける植物の保護を目的とする調査報告書. 古川土木事務所
- 高橋和吉. 1989. 古川市化女沼の植物 化女沼治水ダム建設工事に伴って影響を受ける植物の保護を目的とする調査報告書. 古川土木事務所
- 高橋和吉. 1995. 古川市化女沼ダム本体完成に伴う試験湛水による植物への影響調査報告と移植による保全対策についての提案(第一次報告). 古川土木事務所
- 高橋和吉. 1996. 古川市化女沼ダム本体完成に伴う試験湛水による植物への影響調査報告と移植による保全対策についての提案(第二次報告). 古川土木事務所
- 高橋和吉. 1990. 続宮城県産シダ目録. 25頁
- 宮城県野生植物チェックリスト編集チームチーフ上野雄規. 2015. 宮城県野生植物チェックリスト2015. 宮城植物の会